

chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene (CEAS)の胃粘膜病変の内視鏡像と病理学的な特徴の解明

研究分担者 松本主之 岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科消化管分野 教授
研究協力者 細江直樹 慶應義塾大学医学部内視鏡センター 准教授

研究要旨：chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene (CEAS)の上部消化管内視鏡画像を全国から集積し、その内視鏡画像の特徴を解析する。さらに胃病変の生検検体がある場合は病理検体（プレパラート）も集積し、内視鏡所見と病理所見を対比し、その成因を明らかにする。内視鏡所見はアトラスを作成し、広く公表する。

共同研究者

緒方晴彦（慶應義塾大学医学部内視鏡センター）、長沼 誠、金井隆典（慶應義塾大学医学部消化器内科）、久松理一（杏林大学医学部第三内科学）、大宮直木（藤田保健衛生大学消化器内科）、安川重義（福岡大学筑紫病院消化器内科）、平井郁仁（福岡大学筑紫病院炎症性腸疾患センター）、田邊 寛、岩下明德（福岡大学筑紫病院病理部）、平野敦士、梅野淳嗣、江崎幹宏（九州大学病態機能内科学）

A. 研究目的

chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene (CEAS)の小腸病変の内視鏡的な特徴は明らかになりつつあるが、胃粘膜病変の内視鏡像は不明な部分が多い。そこで診断確定済み CEAS 症例の上部消化管内視鏡画像を全国から集積し、その内視鏡画像の特徴を解析する。さらに胃病変の生検検体がある場合は病理検体（プレパラート）も集積し、内視鏡所見と病理所見を対比し、その成因を明らかにする。内視鏡所見はアトラスを作成し、広く公表する。また、2016年3月に発刊した CEAS 画像診断アトラスも約2年を経過し、症例の入れ替え、遺伝学的に診断の確定した症例の表記の変更を主とした改訂を行

う。

B. 研究方法

事前に各施設における倫理委員会の承認を得た後、「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」班（松本班）で行った全国調査より、診断確定済み CEAS 症例を登録した施設に対し、内視鏡画像、病理検体の提出の依頼をし、集積する。同時に、臨床データ（性別、年齢、発症年齢、既往歴、家族歴、採血データ、罹患部位）を集積する。内視鏡画像解析、病理所見との対比（プロスタグランジントランスポーターの発現の免疫染色を含め）を行う。さらに集積した胃画像アトラスを作成し、小腸病変に対しては前回作成した CEAS 画像診断アトラスを改訂する。

（倫理面への配慮）

本研究は各施設の倫理委員会の承認の後に研究を行う。個人情報の保護にも十分に配慮し、各施設間のデータのやり取りには匿名化情報を用いる。

C. 研究結果

本年度は、本研究計画の発案、研究体制見直

しを行った。

D. 考察

本研究の進捗が不良であるため、研究経過行くの再度立案および再計画を行う。

E. 結論

本年度は、本研究計画の発案、研究体制の見直しを行った。進捗不良であるため。研究体制について再度見直しを行う。

F. 健康危険情報

なし。本研究に起因する有害事象を認めず。

G. 研究発表

1. 論文発表

Horie T, Hosoe N, Takabayashi K, Hayashi Y, Kamiya KJL, Miyanaga R, Mizuno S, Fukuhara K, Fukuhara S, Naganuma M, Shimoda M, Ogata H, Kanai T.

Endoscopic characteristics of small intestinal malignant tumors observed by balloon-assisted enteroscopy.

World J Gastrointest Endosc. 2019 May 16;11(5):373-382.

Hayashi Y, Hosoe N, Takabayashi K, Kamiya KJL, Mutaguchi M, Miyanaga R, Hirata K, Fukuhara S, Mikami Y, Sujino T, Masugi Y, Naganuma M, Ogata H, Kanai T. Clinical

and Endoscopic Characteristics of Pyogenic Granuloma in the Small

Intestine: A Case Series with Literature Review. Intern Med. 2019

Oct 15. doi:

10.2169/internalmedicine.3745-19.

Yahagi N, Fujimoto A, Horii J, Uraoka T, Shimoda M, Takabayashi K, Nisizawa T, Goto O, Ochiai Y, Maehata T, Nakayama A,

Kato M, Hosoe N, Naganuma M.

Dual red imaging: a novel endoscopic imaging technology visualizing thick blood vessels in the gastrointestinal wall.

Endosc Int Open. 2019 Dec;7(12):E1632-E1635. Epub 2019 Nov 25.

Takabayashi K, Hosoe N, Kato M, Hayashi Y, Miyanaga R, Nanki K, Fukuhara K, Mikami Y, Mizuno S, Sujino T, Mutaguchi M, Naganuma M, Yahagi N, Ogata H, Kanai T.

Efficacy of Novel Ultrathin Single-Balloon Enteroscopy for Crohn's Disease: A Propensity Score-Matched Study.

Gut Liver. 2019 Dec 12. [Epub ahead of print]

2. 学会発表

高林 馨, 細江 直樹, 金井 隆典
クローン病におけるバルーン内視鏡を用いた深部小腸評価の有用性の検討(ワークショップ)

JDDW 2019. 神戸, 2019年11月

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし